

令和8年度 学校教育目標・学校経営方針

1 学校教育目標

人や社会とのつながりの中で自分らしく生きる子どもの育成

2 めざす子ども像・教師像・学校像

(1) めざす子ども像

- ・ 自分を大切にし、他者を思いやる子ども
- ・ 個性を伸ばし、自己肯定感を高める子ども
- ・ 人や社会とのつながりの中で学ぶ子ども

(2) めざす教師像 ～家庭・地域に信頼される教師～

- ・ 子どもに寄り添い、信頼される教師
- ・ 心身ともに健康で人間性豊かな教師
- ・ 高い志をもち、学び続ける教師

(3) めざす学校像 ～家庭・地域とともにある学校～

- ・ 明るく楽しく通いたくなる学校
- ・ 社会性や基礎学力を育む学校
- ・ 地域に愛され、応援される学校

3 学校経営方針

子どものよさや可能性を引き出す、新たなスタイルの学校をつくる

- ◆ 「できた!」「わかった!」「やりとげた!」などの多くの成功体験や達成感を味わわせる。
→ 自己肯定感の醸成、その子の歩幅や段差に合わせたチャレンジを促す。
- ◆ 「学校や子どもはこうあるべき」という固定観念からの脱却と発想の転換を図る。
→ 多様性の包摂、新たな学校文化・風土づくりに向けたマインドチェンジを図り続ける。

4 学校経営の重点と具体的方針

重点

インプットからアウトプットへ

～自分らしさの発揮、学習成果の発信にチャレンジ～

- ・ 学んだことや考えたことを自分の言葉や行動として外に表す。
- ・ 内側から外側へ（自分の内なるものを外へ、校内から校外へ）
- ・ 閉じて守るから、開いて一歩踏み出す。

方針1 子どものペースや主体性を尊重

方針2 わかる授業・楽しい授業の実践

方針3 人や社会とつながりつなげる

土台 ウェルビーイングの実現をめざし、働きがいを感じる職場づくり

5 具体的な取組

方針1 子どものペースや主体性を尊重

①ゆとりを生み出す「特別の教育課程」

- ・ 年間の授業日数と総授業時数を縮減する。
- ・ 登校時刻は9時20分、下校時刻は15時5分とする。

②心理的安全性を保障する環境づくり

- ・ 子どもを否定することなく、まるごとを受容できる教職員集団であり続ける。
- ・ リラックスし、気持ちを落ち着かせられる空間と時間を保障する。

③自己決定や自己選択の機会の尊重

- ・ 子どもが自分で考えて、自分で決めること、そして、決めたことを尊重する。
- ・ 行き過ぎた同調圧力や正解主義からの解放をめざす。

④子ども主体の行事や活動等の推奨

- ・ 学校行事等を精選する。
- ・ 子どもの想いや願いに基づく行事や活動等の具現化に向けた支援を行う。

方針2 わかる授業・楽しい授業の実践

① 個に応じた指導ときめ細かな支援

- ・ 一人ひとりの実態や願い（進学先）を踏まえた目標設定や学習方法等を工夫する。
- ・ 少人数指導を可能にする教職員の配置や体制を工夫する。

② 「学び直しの時間（きらりタイム）」の充実

- ・ 子どもとの面談や対話を通して、学習内容を決め、学習計画をつくる。
- ・ 身に付けた学習内容や学習の足跡などを可視化させ、次の意欲につなげる。
- ・ 個々の実情や実態に応じて、先取り学習の時間として活用する。

③ 興味関心や得意を伸ばす学習活動の展開

- ・ 子どもとコミュニケーションを図り、興味関心や得意分野を引き出す。
- ・ ワクワクしながら、楽しく学べる時間と場を提供する。

④ 新・PC 端末の積極的・効果的な活用

- ・ 生成 AI 及び AI 機能ドリル等の活用により個別で効果的な学びを支援する。
- ・ 意見交流や共同編集など、少人数における協働的な学びの在り方を探る。

方針3 人や社会とつながりつなげる

① 地域の素材等を活かした体験活動の充実

- ・ 地域の歴史や文化、自然環境、産業等を活かした学習活動を推進する。
- ・ 生活体験や自然体験、社会体験など、直接体験を重視する。

② 夢や志を育むキャリア教育の推進

- ・ 実社会とつながり、職場体験や交流の機会を設定する。
- ・ 将来の職業観や生き方を考えさせるキャリア教育を推進する。

③ 多様な他者と関わる機会の創出

- ・ 小中一貫校の特色を活かし、異学年・校種間交流、教科担任制を推進する。
- ・ より多くの人と関わる機会をつくり、小さな社会を体感させる。

④ 相互の理解や承認を促す対話の重視

- ・ 自分の考えを言葉にし、仲間の考えを聴き、受けとめる対話の機会を設ける。
- ・ 具体的な場面をもとに、その場にふさわしい対人スキルの獲得をめざす。

土台 ウェルビーイングの実現をめざし、働きがいを感じる職場づくり

① 不登校対策の拠点校として、研修の日常化を図りながら高い専門性を身に付け、成長できる職場

- ・ 教職員研修を意図的・計画的に実施する。
(朝の打合せ、きらりミーティング、学びの多様化学校視察等)

② 校種や職種を超えた職員間のコミュニケーションを大切にし、親和的で、協働的な職場

6 その他

(1) 多様な立場からの人的・物的な支援の活用

- ・ 専門的な見地 (SC、SSWC 等) からの支援を活かし、児童生徒理解を促進する。
- ・ 関係機関 (フリースクール、原籍校等) との情報連携を図る。

(2) 自他の生命尊重

- ・ 自他のいのちを大切にし、心身の健康と保つ。
- ・ いじめの未然防止と未発見・未解決ゼロをめざす。
- ・ 安全・安心な教育活動を推進する。

(3) 読書活動の推進

- ・ プレイルーム（兼 図書ルーム）の環境構成を工夫する。
- ・ 興味関心のある分野を核にしながら、視野を広げていく手立てを講じる。

(4) 安全・安心な施設整備と管理

- ・ 校内外の危険箇所の確認と速やかな対処
- ・ 校内外の快適な環境整備と施設管理